

聖書日課 『からし種』 2023.9.17-9.24

<p>9月17日 (日) ネヘミヤ 7章</p>	<p>「わたしは、兄弟のハナニと要塞の長ハナンヤにエルサレムの行政を託した。このハナンヤは誠実で、だれよりも神を畏れる人物だった。」(2節)。主を畏れ、主の前に誠実であることの大切さと、そうあり続けることの難しさを聖書は繰り返したたちに語り続けている。イエス様が示された父なる神への誠実に習って、歩みを続けるものでありたい。</p>
<p>18日 (月) ネヘミヤ 8章</p>	<p>「彼らは更に言った。『行って良い肉を食べ、甘い飲み物を飲みなさい。その備えのない者には、それを分け与えてやりなさい。今日は、我らの主にささげられた聖なる日だ。悲しんではならない。主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である』」(10節)。主の福音を告げ知らされたわたしたちも、共にその恵みを喜び、分かち合って主の力をいただこう。</p>
<p>19日 (火) ネヘミヤ 9章</p>	<p>「あなたがお与えになった／国と豊かな恵みの中にありながら／あなたがお与えになった／広く肥沃な土地にありながら／彼らはあなたに仕えようとはせず／不正と悪行を改めようとはしませんでした」(35節)。今豊かさが当たり前のこの国にいる私たちは、このようなイスラエルの民を批判することができるだろうか。それぞれいただいている恵みはどれほどか。</p>
<p>20日 (水) ネヘミヤ 10章</p>	<p>「わたしたちは決してわたしたちの神殿をおろそかにしません」(40節)。焼き尽くすささげものや、贖罪のささげものをささげるための神殿は、もはやわたしたちには必要ではない。イエスご自身が自らをささげてくださっているから。ならば、わたしたちが決しておろそかにしてはならないものとはなんだろう。建物ではなく、共にささげる礼拝と祈りではないだろうか。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2023.9.17-9.24

<p>21日 (木) ネヘミヤ 11章</p>	<p>「民の長たちはエルサレムに住んでいた。ほかの民はくじを引き、十人のうち一人が聖なる都エルサレムに来て住み、残りの九人が他の町々にとどまるようにした。民は、進んでエルサレムに住むすべての人々を祝福した」(1、2節)。選ばれた仲間たちを進んで祝福する残りの民。神の選びに拠って主に仕える人たちを進んで祝福する群れの豊かさを思う。</p>
<p>22日 (金) ネヘミヤ 12章</p>	<p>「ゼルバベルの時代とネヘミヤの時代のイスラエルの民は皆、毎日詠唱者と門衛に生活の糧を提供した。また、レビ人には奉納物を与え、レビ人はその奉納物をアロンの子らに分け与えた」(47節)。ゼルバベルとネヘミヤの時代のイスラエルの民は、主に仕え、主を賛美する人々、礼拝を整える人々が必要なことを知っており、彼らの生活を支え続けた。</p>
<p>23日 (土) ネヘミヤ 13章</p>	<p>「また定められた時に薪を奉納し、初物をささげるように決めました。わたしの神よ、わたしを御心に留め、お恵みください」(31節)。この章で、ネヘミヤは三度自分を心に留めてほしいと祈っている。この祈りを、主はどのように聞かれるのだろうか。わたしの働きを、どうぞ主よ覚えてください。そう祈りたくなる時がある。しかし、主は常に心のうちを知っておられる。</p>
<p>24日 (日) エステル 1章</p>	<p>「ところが、王妃ワシュティは宦官の伝えた王の命令を拒み、来ようとしなかった」(12節)。女性は男性の「財産」と見なされ、発言権が認められない時代に、エステル記に登場する女性たちは自分の意思を明確に発したのだった。それは周囲に物議を醸すものとなったが、しかし主なる神は彼女たちをお用いになって御自身の働きを成し遂げられていった。</p>